

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年4月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 水稲V溝直播栽培の播種作業がはじまる

瑞穂市巢南町の（農）巢南営農組合では、国のスマート農業加速化実証プロジェクトを受けて、水稲と小麦の3年5作体系による輸出用米の超低コスト生産に取り組んでおり、今年プロジェクト2年目となる。輸出用米の栽培については、各種スマート農業機械を駆使しながらV溝直播栽培と小麦跡移植を併用し、コスト低減を進める事としている。

今期はスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策と併せて2月中に冬季代かきを行い、ほ場の準備を進めてきた。

4月22日、水稲V溝直播栽培による播種作業が開始されており、実証ほ場を含めて65haでV溝直播栽培に取り組む計画である。

農業普及課では雑草対策や入水時期について指導を行ない単収確保に繋げていく。

（地域支援第三係・松本 政行）



【直播作業の様子】

売れるブランドづくり

■小麦 採種ほの出穂期審査を行う

岐阜農林事務所管内では、約400haで小麦品種「タマイズミ」が作付けされている。栽培に必要な種子は、本巣市と北方町に設置されている採種ほから供給されている。

令和2年産については両地区合わせて14haの種子生産計画があり、農業普及課では関係機関と連携しながら採種ほの設置と運営について支援してきた。

4月9日にはタマイズミの出穂時期に合わせて、ほ場審査を行い全筆合格とした。当日は種子生産者の他、県農業経営課及び農産園芸課、県米麦改良協会、全農岐阜県本部、JAぎふなど25名が参加して、異品種混入の有無、病虫害や雑草の発生程度、生育状況などについて確認した。令和2年産小麦は播種期以降、暖かく推移したため旺盛に生育し、出穂期審査は前年より1週間早い実施となった。

今後、農業普及課では、良質な種子の供給に向け、収穫前の糊熟期審査や刈取時期の指導を行っていく。

（地域支援第三係・松本 政行）



【ほ場審査の様子】

■ささげ 新規栽培者4名増で産地拡大へ

飛騨美濃伝統野菜である「ささげ」を生産する糸貫ささげ振興会では、施設及び露地栽培で4名の新規加入者が栽培を開始し、会員が7名から11名に増加し面積も拡大した。

農業普及課はJA営農指導員と共に、ほ場や播種の準備・定植後の管理について支援を行ってきており、今後の栽培が期待される。

ささげの出荷は施設栽培で6月、露地栽培は7月から始まる予定であり、今後病虫害防除などについて個別に支援を継続し、単収及び品質の確保を図ってゆく。



【ささげの施設栽培状況】

（地域支援第三係・山田 奈巳）

■ 守口だいこん 採種圃の開花

J A ぎふ大根部会守口生産組合が管理する採種圃場では、昨年12月に母本選抜・定植した親株が4月上旬より開花期を迎えている。順調に受粉が終われば5月下旬に刈取り、乾燥後に脱莢・種たたき作業が梅雨明け後に行われる。この採種作業で得られた種子は9月中旬よりは種が行われ、12月には守口漬の原料となる守口だいこんが収穫される。

農業普及課では、栽培に関する情報提供・活動の支援を行っている。



【満開の採種圃場】

(園芸産地支援第一係・横田 京子)

■ えだまめ 岐阜えだまめの出荷始まる！

昨年と同日の4月17日から、J A ぎふ曾我屋選果場において、岐阜えだまめの出荷が始まった。

初出荷に向けて4月6日にはJ A ぎふ、J A 全農岐阜県本部の担当者とともに、作況調査を行い、市場等への情報提供を行った。今年度は、播種以降2月に一時的に低温になった以外は暖冬で推移しているものの、開花日以降の冷え込みにより生育は平年並みとなっている。

今後、ハウス、トンネル、露地ものと続き、11月中旬頃まで出荷が続く見込みである。農業普及課は、長期安定出荷にむけた栽培支援を行っていく。



【作況調査の様子】

(園芸産地支援第一係・高井 啓)

■ アスパラガス 夏どりを目指して立茎準備中

岐阜地域のアスパラ産地では、3月から春芽の収穫が行われている。暖冬の影響もあり、春芽は平年よりも生育1週間程度早く、品質も良く収穫量は多く推移している。

今後は、夏芽の収穫に向けて立茎の準備を行っており、農業普及課では、技術資料を配布し、安定出荷に向けて引き続き支援を行っていく。

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)



【アスパラガスほ場の様子】

■ かき 岐阜市かき共販振興会代表役員会の開催

4月16日、岐阜市かき共販振興会代表役員会がJ A ぎふ黒野流通センターにて、新型コロナウイルス対策のため、屋外にて距離をとりながら開催された。役員会では本年の事業計画について検討され、接ぎ木講習会、摘らい講習会、総会など当面の行事は中止することとなった。

農業普及課からは、今後の栽培管理、病虫害発生状況および対策について説明を行った。各種行事が中止となるため、各作業時期に合わせた管理ポイントの発行や摘蓄作業に関する技術資料の配布を行うなど、技術支援を行っていく予定である。



【役員会の開催風景】

(園芸産地支援第二係・小枝 俊仁)